

令和 6 年 5 月 6 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02317

研究課題名（和文）農民画礼賛：18世紀国際絵画市場におけるオランダ絵画趣味と蒐集

研究課題名（英文）In Praise of Peasant Imagery: A Taste for Dutch Genre Painting on the Eighteenth-Century International Art Market

研究代表者

青野 純子（Aono, Junko）

明治学院大学・文学部・教授

研究者番号：20620462

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、18世紀を17世紀オランダ絵画受容の黎明期とみなし、この時期に17世紀絵画が「国の誇るべき美術の典型」として規範化されるプロセスを、当時の国際絵画市場とコレクション形成の文脈において考察した。とりわけ、新たに隆盛した競売市場における17世紀オランダ絵画の価格の高騰が、国際的なネットワークを持つ画商の活動や、絵画の視覚的情報を伝えるメディアとしての複製芸術の流通により促され、オランダ絵画観の形成に寄与したことを、複数の事例研究において明らかにした。研究成果は学術論文や国内外のシンポジウムでの講演として発表し、2023年の本科研プロジェクト主催のシンポジウムにおいて総括を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西洋美術史において17世紀のオランダ美術はレンブラントやフェルメールなどの多くの優れた画家を輩出した「繁栄期」と見なされ、その絵画は素朴な市民の日常の表象として称賛されてきた。本研究では、18世紀という時代を17世紀の繁栄期に続く「衰退期」ではなく、絵画市場の国際化の中でその芸術遺産を意識的に継承・定義・評価した受容期として積極的に再考することで、17世紀オランダを偏重する従来の美術史観に修正を迫る。今日の我々が持つ「17世紀オランダ絵画観」がどのように形成されたのか、そのプロセスを解明しようというアプローチは、今日までの西洋美術史の言説の批判的な再考に寄与する。

研究成果の概要（英文）：This project examines the process of canonization of seventeenth-century Dutch painting as the art of civil society in Holland during the eighteenth century, which was deemed as the transitional period, manifesting itself after a glorious age of unprecedented prosperity. Case studies, focused on the flourishing auction market, art dealers' international networking, and the production of reproductive prints and drawings as mediums of recording and circulating the imagery of painting, reveal how these were related and interacted with each other and contributed to the high reputation of seventeenth-century Dutch painting on the expanding international art market of the eighteenth century. The result of this research was published as articles and essays and presented at domestic and international symposia.

研究分野：西洋美術史

キーワード：西洋美術 オランダ 風俗画 17世紀 18世紀 市場 絵画 農民

1. 研究開始当初の背景

近年のオランダ美術史研究において、レンブラントやフェルメールを輩出した17世紀オランダ美術のみを重視する立場は見直され、その芸術遺産を受容した時代としての18世紀が関心を集めている。筆者は2005年以降10年以上にわたり、この18世紀オランダ美術の再評価を欧米の研究者と共に推進し、展覧会、シンポジウム、学術出版物にて研究成果を発信してきた。2006年にはドイツ、オランダを巡回した1670-1750年のオランダ美術に焦点を当てた展覧会において、図録およびシンポジウムの論文集に寄稿、そして2011年にはアムステルダム大学にて、18世紀前半のオランダ風俗画を再評価した博士論文を提出、その内容を2015年に単著 *Confronting the Golden Age: Imitation and Innovation in Dutch Genre Painting 1680-1750* として出版した。さらに2014-2016年度の基盤研究(C)「18世紀前半オランダ絵画コレクションの受容史的研究：『オランダ性』をめぐる考察」では、研究対象を画家からコレクター・鑑賞者に移し、18世紀に拡大した「セカンドハンドの(=最初の持主の手を離れた)」絵画市場と風俗画蒐集について考察を進めてきた。そこで明らかになったのは、18世紀の国際絵画市場において、イタリアやフランスの著名な画家たちの物語画が人気を集める中、それらと競い合ったのが、特定の題材を描いた17世紀オランダの風俗画であったことである。これまで筆者はその題材のひとつ、市民生活や余暇の場面の風俗画を研究してきたが、本研究でそれらに加えて注目したいのは、「農民画 (*boerentaferelen*)」という風俗画ジャンルである。農民の表象は中世写本の月暦画、16世紀フランドル絵画にも遡るが、例えばアドリアン・ファン・オスターデの作品のように、農民の素朴な生活を飾り気なく描いた17世紀農民画は、「究極の写実主義、憤ましき日常への賛美」として、17世紀オランダ風俗画を代表する「オランダらしい」イメージと讃えられてきた。この見方はオランダ美術史の言説の中で繰り返し強調されてきたが、問うべきは、それは果たしてアプリオリなのか、である。すなわち、「農民画」とその「素朴さ」をオランダの国民性と結びつけて称賛する態度は、実は17世紀オランダ絵画を受容し規範化した後世の時代、つまり18世紀において創出されたのではないかと、という問いである。

さらに、この「誇るべき素朴な農民画」という見方は、オランダ国内で純粋に育まれたのではなく、むしろ、18世紀ヨーロッパ市場に流出したオランダ風俗画に対する国際的な評価が、オランダに逆輸入され、その結果形作られていった絵画観と言えるのではないかと。E. コルトハルス・アルテス『17世紀絵画による国際市場の独占』(2003)をはじめ、近年の18世紀市場研究によれば、セカンドハンドの絵画市場と画商ネットワークが国境を超えて広がるなか、オランダ絵画は、ヨーロッパの他国の絵画とは明確に区別されて蒐集されるようになり、そしてその区別は、多言語で出版されたオランダ美術に関わる理論書や画人伝によっても、促されたという。18世紀という、17世紀が「過去」になりゆく時代、そして絵画市場とコレクション形成に国際化がもたらされた文脈においてこそ、オランダ絵画の「オランダらしさ」がはじめて認識され、農民や市民の表象の「素朴さ」が理想化されたのではないかと。このような問いを中心に、18世紀における17世紀オランダ絵画の受容研究が新たな関心を集めつつあったのが、研究開始当初の状況であった。

2. 研究の目的

近年のオランダ美術史研究において18世紀という時代は、もはや17世紀という芸術の繁栄期の後に続く「衰退期」ではなく、絵画市場のめざましい国際化のなかで、その芸術遺産を初めて意識的に評価し、定義した受容期と目される。18世紀、新たな競売システムの確立を背景に、17世紀オランダ絵画が国内外の市場に溢れ出し、熱心に蒐集され、その特質はまた絵画書のなかでも定義され始める。本研究の目的は、この受容黎明期のダイナミズムのなかで、17世紀オランダ絵画が「国が誇る美術の典型」としていかに規範化され、蒐集され、鑑賞されたのかを、国際絵画市場とコレクション形成の文脈で解明することである。中でも、最もオランダ的と見なされた題材「農民画」を手がかりに、オランダ風俗画の評価の形成を作品の事例研究と一次資料の分析をもとに多角的に考察する。

3. 研究の方法

研究の方法としては、当初の計画通り、1.) 農民画を中心とした風俗画作品に関する情報収集と美術館での作品調査、2.) ヨーロッパにおけるオランダ絵画趣味と蒐集に関する調査研究、3.) 画家をめぐる同時代の文献資料の調査研究という3つを中心に進めていった。ただし、その際、分析対象として農民画のみを扱うのではなく、農民画という典型例を手がかりに幅広くオランダ風俗画を扱うことで、「国が誇る美術の典型」としての絵画をより多様な視点から考察することを心がけた。また、研究を進めるなかで、18世紀における17世紀オランダ絵画観が、国際絵画市場の要であった競売市場における作品評価、とりわけ落札価格の高騰とも深く関わっている可能性が明らかになり、この関連を明らかにするために、以下のような3つの具体的な研究のテーマと問いを設定し、複数の事例研究を中心に研究を進めていった。

【研究テーマ】

- (1) 国際絵画市場を支える競売市場（絵画の値段を決定する要因は何か）
競売市場において落札価格の高騰を引き起こす要因を、まず競売という新たな売買システムの分析、そして競売に関わった人物の行動やネットワークの事例研究によって考察する。
- (2) 競売市場と複製作品（複製作品はいかにしてオリジナル絵画の新たな評価に貢献したのか）
競売市場において絵画作品の落札価格を左右する要因の一つに作品の「視覚的情報」が挙げられる。写真技術の発明以前の時代、絵画作品の視覚的情報を伝えるメディアは、油彩、版画、素描などの様々な素材の複製作品であった。これらの複製作品が競売市場において果たした役割を、複製版画と複製素描に注目して考察を行う。
- (3) 18世紀における17世紀オランダ絵画受容とコレクション形成（画家・コレクターはいかに17世紀絵画を評価したのか）
競売市場を取り巻く同時代の状況と17世紀オランダ絵画の受容を理解するために、17世紀末から18世紀にかけて活動した画家たちによる17世紀の絵画伝統の継承と刷新、そして18世紀のコレクターの趣味や蒐集活動についても考察を行う。

【研究の実施方法】

海外において研究調査を行った主たる研究機関等は下記の通りである。

- 美術館等における作品調査
国立美術館、国立美術館版画室、アムステルダム美術館（アムステルダム）、マウリッツハイス美術館、プレディウス美術館（ハーグ）、フランス・ハルス美術館（ハールレム）、アイルランド国立美術館（ダブリン）等
- オランダの図書館・美術館・研究所等における文献調査
オランダ国立美術史研究所、オランダ王立図書館（ハーグ）国立美術館図書室（アムステルダム）等

4. 研究成果

「研究方法」において記述したように、3つのテーマに沿って研究を進めた。以下ではテーマごとの研究成果とともに、それぞれに該当する主たる研究業績も付記した（詳細は「5. 主な発表論文等」参照）。

(1) 国際絵画市場を支える競売市場

競売における絵画作品の高額落札とは、複数の入札者が作品落札をめぐり競り合った結果であり、競売日までに入札者が特定の作品購入を強く願う状況が整っていたと考えられる。競売の落札価格を統計的に分析した近年の研究によると、落札価格はその時点での特定の絵画や画家の評価を反映し、その価格の推移からは当時のコレクターの趣味を導き出すことができる。そこで、本研究の対象である17世紀オランダ絵画の落札価格の推移を18世紀の競売に具に見ていくと、特定の画家の作品が時に予想以上の高額になった事例が見つかり、さらに高額落札の情報がその画家の作品の価格の高騰に拍車をかける現象も見られた。つまり、競売における高額落札の事実が、国外のコレクターたちに伝わり、特定の画家の作品の評判を高め、さらに多くの購入者を惹きつけ、国際的な評価が高まっていったとも推測できるのである。そこで問うべきは、なぜ特定の画家の作品の落札価格が特定のタイミングで高くなったのか、なぜ競売を前にして蒐集熱・購買欲が著しく高まったのかであり、本研究ではそれらを絵画の競売というシステムに関わる人々、画商とコレクターの活動の中に探る。

競売市場における画商の役割

17世紀オランダの画家アドリアーン・ファン・オスターデの農民画《宿屋の前で踊る農民の男女》が1750年のハーグの競売において高額な落札価格をつけた事例を中心に考察を行った。パリ有数の画商エドメ・フランソワ・ジェルサンによるファン・オスターデの農民画の戦略的プロモーション、そしてそれに刺激された画商ルイ・フランソワ・コランによるファン・オスターデ作品の高額落札という一連のプロセスを、競売目録および財産目録などの18世紀の一次資料をもとに分析した。それにより、パリの絵画市場において17世紀オランダの農民画がオランダ美術の典型として人気を高め、その評価がオランダに逆輸入される様子が浮き彫りになるとともに、市場操作を行う画商の役割も明らかになった。（論文「**変わりゆく17世紀オランダのアート・マーケット 18世紀の中古絵画市場を中心に**」小林頼子、青野純子共編著『アート・マーケットの時代：17世紀オランダ・フランドルを中心に』2020年、112-132頁；発表「**変わりゆく17世紀オランダのアート・マーケット 18世紀の中古絵画市場を中心に**」コロッキウム「17世紀オランダの画家とアートマーケット」、国立西洋美術館、東京、2019年。）

競売市場におけるコレクターの役割

18世紀の競売市場において17世紀オランダ絵画の価格が高騰した要因の一つは、オランダ国外の富裕な芸術愛好家たちによる入札と高額落札であった。18世紀ドイツの芸術コレクターとして名高いカロリーネ・ルイーゼ・フォン・ヘッセン＝ダルムシュタットによるオランダ絵画の落札の事例を中心に、その購入のプロセスと高額落札の背景について考察を行った。オランダ在住の画商からカロリーネ・ルイーゼに宛てた複数の書簡からは、彼女が18世紀オランダ画家レイ・デ・モニの作品をオランダの画商を介してハーグで落札するプロセスや交渉の方法などが具体的に明らかになった。さらには彼女がデ・モニの特定の作品の購入に固執した背景には、彼女が既に所有した17世紀オランダ絵画の中に、デ・モニが属するライデン精緻画派の先駆者たちの同主題の作品があったことが分かる。つまり、コレクターがどのような作品を蒐集し、それをどのように並べて鑑賞するかといった蒐集方針が、特定の作品の購入を促し、競売においてその価値を高める要因の一つになったことが明らかになった。(論文、論文 "Louis de Moni: *Feinmalerei* collected by Caroline Louise of Baden," in: C. Dumas, R.E.O. Ekkart, and C. van de Puttelaar (eds.), *Connoisseurship: Essays in Honour of Fred G. Meijer*, Primavera Pers, 22-27.)

競売市場の仕組みと競売目録

競売の際に事前に出版される「競売目録」は、潜在的な購入者(入札者)に向けて、競売に付される作品やその作家の情報を掲載した出版物であり、目録における作品の詳細な記述は、開催人・画商が当時どのように作品を評価し、購入者に向けてアピールしていたのかを示唆している。18世紀競売目録が絵画市場において果たした役割を事例研究をもとに分析した結果、目録が特定の画家の作品の特徴を定義する役割を果たし、時に複数言語(オランダ語・フランス語)で出版され、国境を超えて多くのコレクターに読まれたことから、特定の画家の作品の評価を高めることにも貢献したことが明らかになった。(論文、発表「高すぎる値段：18世紀競売の舞台裏をめぐる一考察」九州大学芸術学研究会、2021年3月、小論「競売目録から読み解くレンブラントの評価 18世紀の光と闇のはざままで」『花美術館』第76号、2021年、22-33頁。)

(2) 競売市場と複製作品

競売市場の興隆を背景に、絵画の所有者が十数年単位で目まぐるしく変わることもあった時代、誰がどのような作品を所有したかという、絵画作品の情報と来歴は極めて重要であった。当時の競売目録はその時点でのコレクションカタログに相当する情報を提供したものの、当時は画家個人の作品を網羅した書物は存在せず、一人の画家がどのような特徴の作品を制作したのか、全体像を把握するのは容易くなかった。実際、コレクターや画商が芸術作品の鑑定や作品購入の判断をする際に頼ることができたのは、競売や蒐集家宅において作品を見て得た自らの記憶や記録であった。こうした状況において、17世紀オランダ絵画を模写したモノクロの複製版画、そして色鮮やかな水彩の複製素描は、その芸術性が高く評価されただけでなく、絵画の視覚的情報を克明に伝えるメディアとしての役割を果たしたと考えられる。競売市場において複製作品は実際にどのような役割を果たしたのか、考察を行った。

複製版画

複製版画的な事例として、パリで活躍した版画家ヨハン・ゲオルク・ヴィレが制作したヘリット・ダウの《糸を巻き戻す老女》を取り上げ、分析を行った。その結果、ダウの繊細な筆致を見事に複製したヴィレの版画がサロンで展示され、高い評価を受けたこと、そしてそれらが流通することで、ダウ作品の評判を高め、競売における高額落札にも貢献したことが明らかになった。さらには複製版画がオリジナル絵画の新たな鑑賞法を提案し、オリジナルの絵画の価値を高めた可能性も指摘した。(論文「ヘリット・ダウ《糸を巻き戻す老女》18世紀パリ絵画市場における17世紀風俗画と複製版画」青野純子、今井澄子、望月典子、望月みや編著『移ろう形象と越境する芸術 小林頼子先生退職記念論文集』八坂書房、2019年；発表 "Rivalry or Homage: Pendants in the Post-Vermeer Period," International Symposium, *Vermeer and the Masters of Genre Painting: Inspiration and Rivalry*, National Gallery of Ireland, Dublin, 2017.)

複製素描

18世紀末の画家・素描家が17世紀オランダ絵画を模写した「複製素描」は、オリジナルの油彩画の色彩と筆致を水彩絵具とチョークによって鮮やかに伝える芸術作品であり、素描の裏面には、制作者名と制作年に加え、オリジナル絵画の画家名、それを所有したコレクターの名前などが書き込まれている。素描制作とオリジナル絵画の売買の関係、素描を収集したコレクターと画商と素描家の関係を調査した結果、複製素描が当時の競売市場におけるオランダ絵画の売買と関連して制作された可能性が明らかになった。すなわち、複製素描は市場で入手困難なオリジナル絵画を彷彿する代替品、またはコレクターや画商がオリジナル絵画を高値で売却するための宣伝のイメージとして機能した可能性がある。例えば、特

定の17世紀オランダ画家による絵画は、18世紀末の絵画市場において急速に値段が高騰するが、これは彼らの絵画が複製素描の対象に頻りに選ばれた時期と一致しており、複製素描が彼らの人気を反映すると同時にその再評価を促進させた可能性があることが明らかになった。(論文 "Kunstenaars op de veiling: tussen zakelijkheid en bewondering," in: Frans Grijzenhout (ed.), *Kunst, kennis en kapitaal: Oude meesters op de Hollandse veilingmarkt 1670-1820*, Amsterdam, 2022, 237-261; 発表 「色と光を描く-- 18世紀オランダの複製素描とピーテル・デ・ホーホの評価をめぐり一考察」シンポジウム「15~18世紀ネーデルラントとオランダ美術における複製/コピー」明治学院大学、東京、2023年; 発表 "Rediscovering Pieter de Hooch: Eighteenth-Century Dutch Reproductive Drawings and the Auction Market," *Peck Drawings Symposium: Making, Collecting, and Understanding Dutch and Flemish Drawings 1500-1800*, Rijksmuseum, Amsterdam, 2023.)

(3)18世紀における17世紀オランダ絵画受容とコレクション形成

18世紀における17世紀絵画の評価を理解するために、17世紀末から18世紀にかけて活動した画家たちによる17世紀絵画の伝統の継承と刷新について、そして18世紀のコレクターの趣味や蒐集活動についても幅広く考察を行った。

18世紀初頭の画家による17世紀オランダ絵画の伝統の継承と刷新

まず、18世紀オランダの新しい絵画市場の状況とそれに対応する18世紀の画家たちの創作活動について概観した上で、レイデン精緻画派の代表として17世紀から18世紀後半まで三世代続く芸術家一家であるファン・ミーリス家に焦点を当てて分析を行った。それにより、18世紀の画家たちが17世紀オランダ絵画の特徴を模倣しつつも、一方では新たに隆盛した古典主義の理念と実践に適応しながら制作を行った状況が明らかになった。(論文 「ポスト・フェルメールの時代を生きる画家たち 18世紀オランダ風俗画の魅力めぐって」小林頼子編著『VS. フェルメール 美の対決 フェルメールと西洋美術の巨匠たち』、2018年、146-154頁; 書評 "Review of: Margreet van der Hut, *Jan van Mieris (1660-1690): His life and work*, Zaandijk [CASAE], 2021," *Oud Holland Reviews*, 2022.)

18世紀コレクターの趣味と蒐集活動

18世紀の富裕な美術コレクターの邸宅における展示方法を再現してみるならば、18世紀の装飾が施された室内に、18世紀の絵画、東洋磁器など舶来の品々、そして17世紀から継承した絵画などが混在する異種混交(ハイブリット)の展示空間であったことが分かる。この状況に着目し、東洋の事物が描かれたオランダ風俗画と肖像画を分析した結果、こうした特定のコレクション空間が、絵画作品の解釈や鑑賞方法に影響を与えたことが明らかになった。(論文 「18世紀初頭オランダ風俗画における磁器蒐集の表象 ウィレム・ファン・ミーリス『猿のいる室内』をめぐり考察」幸福輝編著『17世紀オランダ美術と<アジア>』、2018年、93-122頁; 発表 "Porcelain Collecting Monkeys: The Case of A Genre Painting by Willem van Mieris," *Netherlandish Art and the World: A Conference on Global Art History*, Utrecht University, Utrecht, 2018; 発表 "The Japanese Rok in Seventeenth-Century Dutch Portraiture," *International Symposium, Global Costume: Kosode, Banyan, Kebaya and Japanese Rok 1500-1850*, 九州大学、福岡、2017年。)

以上のように、具体的に3つのテーマを中心に研究を進めた結果、18世紀において、農民や市民の姿を捉えた17世紀オランダ絵画が「国が誇る美術の典型」として称揚されていくプロセスに、当時新たに隆盛した競売市場、国際絵画市場、画商たちのネットワークの拡大が深く関わっていたことが明らかになった。とりわけ、絵画の評価がいかに形成されるのかという問いに対し、競売市場における絵画作品の値段の高騰に注目し、事例研究によってその高騰の理由に迫ることで、その高騰を促す仕組みが競売システム自体に内包されるとともに、画商やコレクターたちによって演出、操作されていたことも浮き彫りになった。さらに市場の国際化に伴い、絵画作品をめぐる情報戦が激化する中で、複製版画や複製素描という絵画の視覚的情報を伝えるメディアが、絵画の価格の高騰、すなわち絵画の高い評価に貢献したことも明らかになった。中でも18世紀末以降19世紀にかけて、オランダ絵画観が変容するなか、色鮮やかな水彩素描がその推移に寄与した可能性は高い。以上のような成果とさらなる洞察への可能性は、2023年3月に明治学院大学にて本科研主催で開催したシンポジウム「15~18世紀ネーデルラントとオランダ美術における複製/コピー」において論じられ、複製素描と17世紀オランダ絵画の評価史をめぐる新たな科研プロジェクトの礎となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 青野純子	4. 巻 41
2. 論文標題 「色と光を描く 18世紀オランダの複製素描とピーテル・デ・ホーホの評価をめぐる一考察」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『言語文化』	6. 最初と最後の頁 153-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青野純子	4. 巻 41
2. 論文標題 「緒言（特集：15-18世紀ネーデルラントとオランダにおける複製 / コピー）」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『言語文化』	6. 最初と最後の頁 79-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Aono	4. 巻 0
2. 論文標題 "Kunstenaars op de veiling: tussen zakelijkheid en bewondering"（「競売における画家たち：実利主義と芸術賞賛の間で」）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frans Grijzenhout (ed.), Kunst, kennis en kapitaal: Oude meesters op de Hollandse veilingmarkt 1670-1820（『芸術・知識・資本：1670-1820年のオランダ競売市場における巨匠たち』）	6. 最初と最後の頁 237-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Junko Aono	4. 巻 -
2. 論文標題 "Review of: Margreet van der Hut, Jan van Mieris (1660-1690): His life and work (Zaandijk, 2021)"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Oud Holland Reviews	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 青野純子	4. 巻 76
2. 論文標題 「競売目録から読み解くレンブラントの評価 18世紀の光と闇のはざままで」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『花美術館』（特集「光と影を操るレンブラント」尾崎彰宏監修）	6. 最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Aono	4. 巻 -
2. 論文標題 "Louis de Moni: 'Feinmalerei' collected by Caroline Louise of Baden"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Charles Dumas, Rudi Ekkart, and Carla Van de Puttelaar (eds.), Connoisseurship: Essays in Honour of Fred G. Meijer	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 青野純子	4. 巻 -
2. 論文標題 「変わりゆく17世紀オランダのアート・マーケット 18世紀の中古絵画市場を中心に」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アートマーケットの時代 17世紀フランドル・オランダを中心に』（小林頼子・青野純子監修／編集）	6. 最初と最後の頁 113-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 青野純子	4. 巻 初版
2. 論文標題 「ヘリット・ダウ《糸を巻き戻す老女》 18世紀パリ絵画市場における17世紀オランダ風俗画と複製版画」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『移ろう形象と越境する芸術 小林頼子先生退職記念論文集』（青野純子、今井澄子、望月典子、望月みや編）	6. 最初と最後の頁 245-269
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 青野純子	4. 巻 初版
2. 論文標題 「18世紀初頭オランダ風俗画における磁器蒐集の表象 ウィレム・ファン・ミーリス《猿のいる室内》をめぐる考察」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『17世紀オランダ美術と<アジア>』（幸福輝編）	6. 最初と最後の頁 93-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 青野純子	4. 巻 初版
2. 論文標題 「ポスト・フェルメールの時代を生きる画家たち 18世紀初頭のオランダ風俗画の魅力をめぐって」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『VS. フェルメール 美の対決 フェルメールと西洋美術の巨匠たち』（小林頼子、今井澄子、望月典子、青野純子）	6. 最初と最後の頁 146-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青野純子	4. 巻 初版
2. 論文標題 「フェルメールと風俗画家たちの挑戦」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『フェルメール 原寸美術館 100% VERMEER』（千足伸行監修）	6. 最初と最後の頁 194-198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Junko Aono
2. 発表標題 "Rediscovering Pieter de Hooch: Eighteenth-Century Dutch Reproductive Drawings and the Auction Market"
3. 学会等名 Peck Drawings Symposium: Making, Collecting, and Understanding Dutch and Flemish Drawings 1500-1800, Rijksmuseum, Amsterdam（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青野純子
2. 発表標題 「色と光を描く 18世紀オランダの複製素描とピーテル・デ・ホーホの評価をめぐる一考察」
3. 学会等名 シンポジウム「15～18世紀ネーデルラントと オランダ美術における複製／コピー」明治学院大学、東京
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 青野純子
2. 発表標題 「価値を生み出す筆 18世紀オランダ絵画市場と複製素描」
3. 学会等名 三田芸術学会（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青野純子
2. 発表標題 「高すぎる値段：18世紀競売の舞台裏をめぐる一考察」
3. 学会等名 九州大学芸術学研究会（オンライン）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 青野純子 / Junko Aono
2. 発表標題 「変わりゆく17世紀オランダのアート・マーケット 18世紀の中古絵画市場を中心に」 / "Changing Features of the Seventeenth-century Dutch Art Market -- A Study on Eighteenth-century Secondhand Art Market --"
3. 学会等名 コロッキウム「17世紀オランダの画家とアートマーケット」 / Painters and Art Market in Holland during the 17th Century、国立西洋美術館、東京（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko Aono
2. 発表標題 "Porcelain Collecting Monkeys: The Case of A Genre Painting by Willem van Mieris"
3. 学会等名 Netherlandish Art and the World: A Conference on Global Art History, Utrecht University, Utrecht (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Junko Aono
2. 発表標題 "The 'Japone Rok' in Seventeenth-Century Dutch Portraiture"
3. 学会等名 Kosode & Banyans: Contested World Views in an Attire c1580-1910, Warwick University, Coventry (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Junko Aono
2. 発表標題 "Rivalry or Homage: Pendants in the Post-Vermeer Period"
3. 学会等名 International Conference: Vermeer and the Masters of Genre Painting: Inspiration and Rivalry, National Gallery of Ireland, Dublin (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Junko Aono
2. 発表標題 "The 'Japone Rok' in Seventeenth-Century Dutch Portraiture"
3. 学会等名 Global Costume: Kosode, Banyan, International Symposium: Kebaya and Japone Rok 1500-1850. A Dialogue of Global Circulation between Art History, Economy and Material Culture, 九州大学、福岡 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Frans Grijzenhout	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Walburg Pers	5. 総ページ数 360
3. 書名 Kunst, kennis en kapitaal: Oude meesters op de Hollandse veilingmarkt 1670-1820 (『芸術・知識・資本: 1670-1820年のオランダ競売市場における巨匠たち』)	

1. 著者名 小林頼子・青野純子編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 -	5. 総ページ数 162
3. 書名 『アートマーケットの時代 17世紀フランドル・オランダを中心に』	

1. 著者名 青野純子、今井澄子、望月典子、望月みや	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八坂書房	5. 総ページ数 512
3. 書名 『移ろう形象と越境する芸術 小林頼子先生退職記念論文集』	

1. 著者名 小林頼子、今井澄子、望月典子、青野純子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 八坂書房	5. 総ページ数 176
3. 書名 『VS. フェルメール 美の対決 フェルメールと西洋美術の巨匠たち』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

- シンポジウム開催（本科研費主催）：「15-18世紀ネーデルラントとオランダ美術における複製／コピー」（2023年3月4日）明治学院大学
 開催概要：https://www.meijigakuin.ac.jp/art/news/archive/2022/2023/2023-01-23.html

- 明治学院大学言語文化研究所ウェブサイト『言語文化』41号：
 https://www.meijigakuin.ac.jp/gengobunka/bulletins/archive/41.html

・ 青野純子「色と光を描く 18世紀オランダの複製素描とピーテル・デ・ホーホの評価をめぐる一考察」（『言語文化』41）
 https://www.meijigakuin.ac.jp/gengobunka/bulletins/archive/pdf/2024/10aono.pdf

・ 青野純子「緒言」（特集「15-18世紀ネーデルラントとオランダ美術における複製／コピー」）
 https://www.meijigakuin.ac.jp/gengobunka/bulletins/archive/pdf/2024/06intro_aono.pdf

- Peck Drawings Symposium, Rijksmuseum, Amsterdam:
 https://www.rijksmuseum.nl/en/whats-on/lectures-symposiums/drawings-symposium

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------